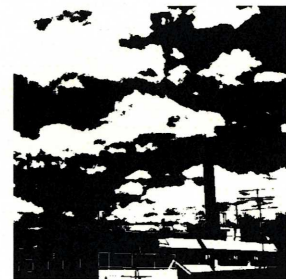
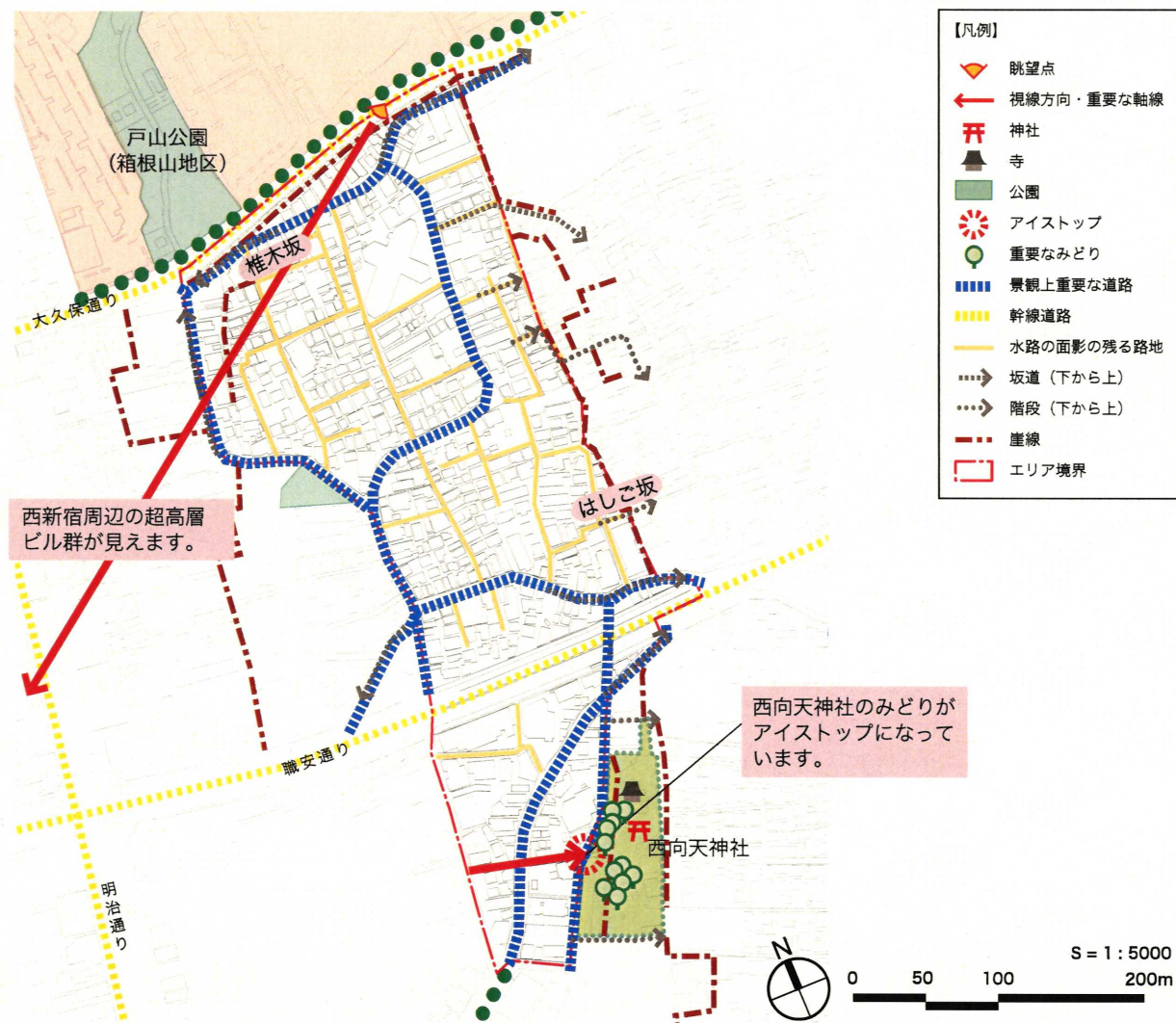


5-2 大窪エリア



エリアの大部分は、神田川沿いの低地から伸びてきている窪地となっています。そのため、東西両側に斜面地があり、見上げる眺めが特徴となっています。また、江戸時代の用水路跡を通る道路などが、特徴的な道路基盤となっています。

景観特性



西新宿周辺の超高層ビル群が見えます。

西向天神社のみどりがアイストップになっています。

1. 窪地の住宅地



エリアの大部分は窪地であるため、周囲の喧騒から切り離され、まとまりある落ち着いた住宅地となっています。しかしながら低地であるため、台地上の高層建築物などの影響を受けやすくなっています。

2. 緩やかに曲がる用水路跡



江戸時代は百姓地で水田が多くあり、用水路が通っていました。その一部は今でも道路として残っており、沿道の建築物が折り重なる奥行きのある景観となっています。

3. 窪地からの見上げる眺め



エリア全体が窪地となっているため、エリアの外周部に対して常に見上げる景観となっています。特にエリア北側の大久保通り沿いでは、高低差が大きくなっています。

景観形成の目標

窪地の地形をいかした落ち着いた住宅地のまちなみへ

窪地形に位置するまとまりあるまちなみの路地や坂道、階段をいかしながら、落ち着いた住宅地の景観をつくる。

景観形成の方針

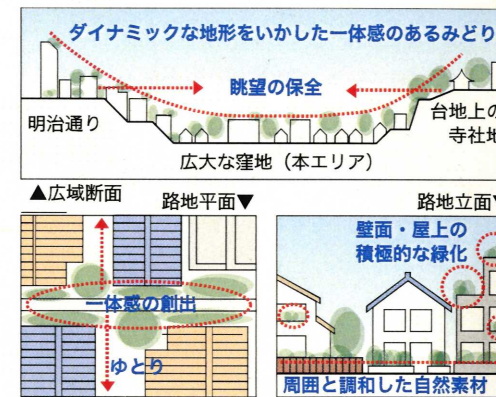
1. 窪地に位置する住宅地の落ち着いた景観をつくる

景観形成の考え方

窪地の地形に位置し周囲の喧噪から切り離された住宅地の落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- エリアに多く存在する路地景観を、身近なみどりがあふれる潤いのあるものとする
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 色彩や素材は、周囲の落ち着いた雰囲気と調和したものとする
- 垣・さくなどは生垣や自然素材のものとする



落ち着いた住宅地

2. 古くから使われている路地をいかした歩いて楽しい景観をつくる

景観形成の考え方

水路跡の蛇行する道路など特徴のある道路をいかし、歩いて楽しい景観をつくる。

具体的な方策

- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 視線が集中しやすい道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分などでは、積極的に緑化を行う



蛇行する路地をいかした景観

3. 坂道や階段をいかした景観をつくる

景観形成の考え方

エリアの外周を取り囲む斜面地にある坂道や階段をいかし、みどりあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 擁壁上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する(壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など)
- 坂道や階段沿いでは空地をとり、植栽帯を設ける



斜面地をいかしたみどりあふれる景観

